

## 第3回 岩手の暮らし部会における主な意見等

- ・ 「幸福」の考え方が人それぞれであるがゆえに、県民が共感できる「理念」（長期ビジョン第2章）にすべき
- ・ 自助、共助、公助（権利擁護と個々の意思決定）のバランスのとり方が大事（生まれてから亡くなるまで、どんなライフスタイルでも）
- ・ 自然環境は、保全（守る）だけではなく、再生していくことも必要
- ・ 情報格差対策として、県主催のセミナー等はネット配信するなど、現地に行かなくても情報入手できる方策を進めるべき
- ・ 財源やマンパワーが限られている中、政策の優先順位をつけるべき
- ・ 総合計画の有効性と実効性を高める

## 第3回 岩手の仕事部会における主な意見等

- ・ 人口減少問題、特に社会減については、あらゆる分野に係る重要な課題として計画の中に位置づけるべき。（第3章等）
- ・ 進学や就職時に岩手に残る/出る/戻る/戻らない人の理由を調査し、施策に活用すべき。
- ・ 健康は、全ての活動の基本であり、職場においても病気を予防し、早期発見する施策により注力すべき。
- ・ 子育て環境は、施設やサービスだけでなく、地域として子育てしあうような環境（意識）づくりが、岩手においては大事ではないか。
- ・ 元気な高齢者が希望どおりに働けるような環境づくり、啓発が必要。
- ・ 「仕事・収入」の目指す方向性は個人レベルであるが、取組方向は産業寄り。施策がどのように個人の幸福につながるのか整理すべき。

## 第3回 岩手の学び・文化・スポーツ部会における主な意見等

- ・「教育」における「幸福」を意識した施策（「自己肯定感」の向上の重視、「学力向上」を必ずしも最優先としない考え方）
- ・「家族・子育て」における「地域との関係性」の重視
- ・それぞれの政策分野に様々な県民の参画を求めること
- ・岩手の幸福に向けた活動の基盤となる組織や団体などの在り方の検討
- ・「人間力」の養成や地域とのつながりなども含めた「人づくり」も「基盤」であり、一つのまとめりとしてもよいのではないか
- ・教育現場の負担を考慮した施策
- ・人と人とのつながり（県外との交流）
- ・県外に出て、戻って来られる環境づくりや県外で活躍しながら岩手とのつながりを持ち続ける人づくり
- ・歴史・文化や仕事・収入に伝統工芸や先人・偉人などの活用の視点を持つ
- ・岩手の良さの見える化（日常的な岩手の良さの可視化）

## 第3回 岩手の若者部会における主な意見等

- ① 将来の岩手を描く際に格差の解消を目指すことが重要。どんなライフスタイルでも、安心安全を保障することで、「希望郷」、「幸福」につながる。
- ② 幸福度を高める手段として、ストレスを取り除くことが重要。例えば、夫婦別姓、LGBT施策、どこでもwi-fiにつながる環境など、とんがった施策があっていい。それにより、女性が起業し働きやすい環境づくりやインバウンドなど、多面的な効果が出てくる。
- ③ 「働き方改革」においては、業務改善を進めることが有効。その際、本県の企業の大半を占める中小事業者を、改革の動きにうまく巻き込んでいくことが重要。
- ④ 個人に着目し「幸福」に着目している点など、総合計画の特徴を強くアピールすべき。その際、マンガやSNS、動画を活用するなどの工夫が有効。計画の特徴、岩手の特徴を示すために、他県の計画との比較や目標の数値化をすべき。